

シラバス詳細

タイトル「2025年度シラバス」、カテゴリ「経済経営学類」

科目情報

< 2/9件 >

科目名

Path to CEFR C1 II

講義名

Path to CEFR C1 II

クラス

担当教員

何 敏(r447@ipc.fukushima-u.ac.jp)

実務経験のある教員による講義

学年

2年、3年、4年

キャンパス区分

金谷川キャンパス

開講学期

前期

開講時期

(前期)

曜日・時限

木3

講義室

講義室未設定

科目種別

通常講義(学類)

ナンバリング

z0300260

科目区分

自由領域科目(学類)

単位区分

自由

単位数

2

準備事項

備考

特修プログラム

直接参照URL

https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047440161119&formatCD=1

授業方法

講義、演習、実技、グループワーク、発表、ディスカッション

講義情報

授業概要とねらい

本授業は、CEFR C1レベルを目標とするアカデミック英語の4技能のスキルアップを目指すPath to CEFR C1科目群の2つ目です。幅広いジャンルの素材の長文（CEFR B2レベル）を使用し、音読や、サイト・トランスレーション、要約など日英通訳訓練法を取り入れ、比較の視点から両言語の語彙、文法、論理構造への理解を深めます。授業では、日本語による解説やディスカッションを通じて、英語を「ことば」として分析し、アカデミックリテラシーとの関連性について考えます。また、発音や語彙、文法など高校まで習得した知識を大学の文脈で体系化することにより、主体的な取り組みにつなげていきます。さらに、日本語を使用することで、留学生にとっては日本語の実践の場となり、言語知識を活用できる機会を提供します。

単位認定基準

1. 通訳訓練法により、培われる音読やサイト・トランスレーション、言い換え、要約などの力がアカデミック英語とどのように関係するかについて理解できる。
2. 日英両言語の数字のクイック・リスponsとサイト・トランスレーションを社会生活などで実践できる。
3. 語彙の言い換え、コーロケーションの吟味及び文書の要約を習慣的に行える。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 Globalization 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第3回 Education 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第4回 The Environment 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第5回 Life Style 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第6回 Tourism 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第7回 Happiness 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第8回 Health 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用；中間まとめ
 - 第9回 Architecture 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第10回 Transportation 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第11回 Energy 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第12回 Sport 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第13回 Art and Design 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第14回 Aging 語彙学習、音読、サイト・トランスレーション、要約、IELTSのライティングとスピーキング対策への応用
 - 第15回 振り返り、成果・課題の発表
- * 授業内容に変更が生じた場合は随時説明します。

授業計画（週形式）

教材・教科書

IELTS Common Mistakes For Bands 6.0-7.0 (Cambridge University Press)

参考図書

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

- ・各回のテーマに関係する語彙の発音や、言い換え、文法などを、文脈のなかでの活用を調べ、予習しておくこと。
- ・授業で配布された資料や授業中にとったメモを参考にして、授業内容の復習を行い、「パラパラめくる」単語帳を作成すること。
- ・IELTS Academic 問題集の問題に取り組み、定期的に自身の学習成果と課題を整理すること。
- ・単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とする。

成績評価の方法

出席・授業中の活動：60％
授業内課題・小テスト：20％
期末自己評価レポート：20％

成績評価の基準

- S: 単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果を上げた (90～100点)
A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果を上げた (80～89点)
B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果を上げた (70～79点)
C: 単位認定基準を満たす最低限の学修成果を上げた (60～69点)
F: 単位認定基準の学修成果をあげられなかった (～59点)

オフィスアワー

申し出に応じて対応します。事前にアポイントメントを取って下さい。

授業改善・工夫

留意点・注意事項

本授業は、日本語と英語の両言語で行われます。留学生はN3以上の日本語力が必要です。

教員の実務経験の有無

全国通訳案内士有資格者；法廷通訳及び通訳研修講師の経験有。